



未来をひらく

中学校における共通標準服の導入について

現在の状況 採用する標準服のタイプは各中学校にて決定

共通標準服導入にかかる検討方法

機能性(動きやすさや防寒・暑さ対策)の課題や生徒の性の多様性への配慮等から、総合的に見直す必要が出てきたため、以下のとおり今後の標準服の在り方について検討

- 平成30年 7月～ 中学校校長会において検討委員会を実施
- 平成30年11月～ 学識経験者、PTA協議会、校長会、学生等をメンバーとした市中学校標準服検討委員会を実施

共通標準服の概要(結果)

- スカートとスラックスが選択可能なブレザー型の共通標準服「北九州スタンダードタイプ」を令和2年度から導入
- 現行の標準服と北九州スタンダードタイプの両方から選択可能

今後の説明方法 各学校で保護者説明会を開催し、製品グレード、価格、導入までのスケジュール等を説明



▲北九州スタンダードタイプ(冬服)
※②は①よりスリムなタイプ

平成31年度(令和元年度) 全国学力・学習状況調査の結果

小学校国語が全国平均を上回る

小学校国語の正答率が、全国平均を上回りました。文章中の情報を整理して、内容を理解したり、自分の考えを分かりやすく文で表現したりするなど、読解力や表現力が身に付いてきています。

「記述式問題」などの活用問題に課題

小学校算数(全国比96%)・中学校国語(全国比95%)・中学校数学(全国比93%)・中学校英語(全国比90%)が全国平均正答率を下回りました。特に中学校については、全国平均との差があり、活用に関する問題を解く力に課題があります。

※つまりが多かった問題です!

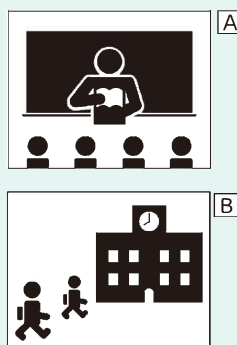
中学校国語

問題 住所・FAX番号・メールアドレスが記載された新聞記事から必要な情報を取り出し、封書の表書きを書きなさい。



中学校英語

問題 「学校」を表す2つのピクトグラム(案内図用記号)で、どちらが学校として適しているかを選び、2つの案に触れながら、自分の考えを25語以上の英語で書きなさい。



今後の対策

今回の調査で、課題として明らかになったことは、「身に付けた基礎的・基本的な知識・技能を活用する力」を育成することです。課題を解決するためには、「○○○という言葉を使い、△△について話し合いますよ」等、話し合う内容を絞ったり、話し合い後に、自分の考えを端的にノートにまとめたりするなどの活動を取り入れるなど、さらなる授業改善を図る必要があります。

第2期 北九州市子どもの未来をひらく教育プランを策定



教育委員会では、前教育プランの計画期間(平成21年度～平成30年度)が終了し、令和元年5月の北九州市総合教育会議において、新たな「北九州市教育大綱」が策定されたことから、教育をとりまく社会状況等の変化や、これまでの成果・課題に対応する、新たな教育プランを策定いたしました。

プラン本編はホームページに掲載しています。
○北九州市教育委員会ホームページ
<https://www.city.kitakyushu.lg.jp/kyouiku/02800198.html>



◆プランの位置付け

- 1 **対象** このプランは、『子どもの学校教育に関する分野』を対象とします。
- 2 **期間** 計画期間は、令和元年度から令和5年度までの5年間とします。

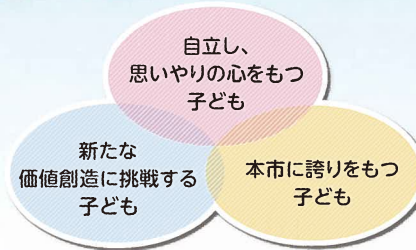
◆プランの見直しの視点

- 1 **新たな時代を切り拓く力を育む視点**
人口減少・高齢化、グローバル化、さらには、AI等の技術革新など、私たちが取り巻く環境が急速に変化していることから、グローバル化に対応するための「英語教育の充実」、AI等の技術革新の進展に対応する「未来を見据えた教育の情報化」等を新たに盛り込んでいます。
- 2 **SDGsの視点**
本市は昨年6月、SDGs未来都市に選ばれ、全市をあげてSDGsに取り組んでいることから、教育活動全体をSDGsに示される17の目標の視点で整理するとともに、「誰一人取り残さない」というSDGsの理念を踏まえた学校教育の推進につなげていきます。
- 3 **働き方改革の視点**
教職員のワーク・ライフ・バランス等の充実に図ることが、教職員の健康保持や一人一人の児童生徒に向き合う環境づくりにもつながることから、施策の柱に「働きがいのある学校づくり」を盛り込んでいます。

◆第2期プランの体系

1 ビジョン(vision)～本市学校教育の目標～

① 目指す子どもの姿



② 目標達成に向けた取組方針

学校・教職員と教育委員会は、互いにコミュニケーションを図り、目標を共有し、一体となって取組みを進める。

2 5つのミッション(mission)と12のアクション(action)

今後5年間で果たすべき5つの「ミッション(使命)」を掲げ、各ミッションを達成するために必要な12の「アクション(施策)」を設定し、重点的な取組みやその方向性を示しています。

ミッション(使命)	アクション(施策)
mission 1 時代を切り拓く力の育成	1 確かな学力の育成
	2 健やかな体の育成
	3 豊かな心の育成
	4 特別支援教育の推進
mission 2 働きがいのある学校づくり	5 大番退職・採用時代における教員の資質向上
	6 学校における業務改善の推進
mission 3 安心な学びの場づくり	7 長期欠席、いじめ等へのきめ細かな対応
	8 児童生徒等の安全の確保
mission 4 市民絡ぐるみでの支援	9 家庭・地域・学校の連携
	10 社会的・経済的な課題への対応
mission 5 未来を見据えた環境整備	11 教育環境の整備
	12 学校施設の整備

SDGsの視点を踏まえた学校教育について

1 学校での取組

SDGsの視点を踏まえて、地域の資源を活かしながら、環境をはじめとした、国際理解、ふるさと、人権、福祉、キャリア、情報、防災等の特色ある教育活動に取り組みます。

2 今年度の主な事業

今年度は、子どもたちが主体的に行動する実践的な態度や資質、能力を育むことができるように、次のような体験学習等を行います。

○SDGs環境アクティブ・ラーニング推進事業

子どもたちが自身が課題を発見・解決し、よりよい環境をつくるために行動することを目指し、小学校4年生を対象として、総合的な学習の時間の中で環境教育関連施設(環境ミュージアム等)を活用した体験活動を実施しています。

○北九州市ユネスコスクール推進指定校事業

環境教育をはじめ、特色ある取組を行っている学校を拠点校とし、ユネスコスクール加盟登録に向けての支援を行っています。

※ユネスコスクールとは…ユネスコスクール・ネットワークを活用して、世界中の学校と生徒や教師が交流し、情報や体験を分かち合い、地球規模の諸問題に若者が対応できるような新しい教育内容や手法の開発・発展を目指すことを目的に設置されている制度です。



※SDGs(Sustainable Development Goals)とは…国連が定めた持続可能な社会を作るための開発目標

オリンピック・パラリンピック教育について

1 これまでの取組と成果

スポーツ庁が実施しているオリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業として、平成29年度から、おもてなし教室、パラリンピック競技を通じた障害者理解、海外の選手や学校との異文化交流、オリンピック・パラリンピアンなどの一流スポーツ選手との交流などに取り組んできました。

普段なかなか経験できないことや、一流選手の経験談などを目の当たりにすることで、児童・生徒のオリンピック・パラリンピックへの関心が高まるだけではなく、おもてなしの心や多様性を認め合う社会、異文化への理解など、様々な面で児童・生徒の大きな財産となっております。

- ※平成29年度 20校園(小学校13校・中学校6校・幼稚園1園)
- ※平成30年度 31校園(小学校19校・中学校11校・幼稚園1園)
- ※令和元年度 44校園(小学校29校・中学校12校・幼稚園1園・特別支援学校1校・高等学校1校)で実施予定。

2 今後の取組

今後も、本市ゆかりのオリンピック・パラリンピアンをはじめとした一流のスポーツ選手達が、本市の教育行政に継続的に協力をしていただけるような体制を構築していきたいと考えています。また、学校体育の中でも、パラリンピック種目を実際に行うことで、児童・生徒が興味をもてるようにするとともに、各学校の取組などを収集し、市内全学校・園に発信することも検討していきます。



▲長行小学校 オリ・パラ応援スタッフ結団式



▲教育センター 展示中のオリ・パラ応援横断幕(戸ノ上中学校生徒作品)とオリ・パラを取り入れた体育大会(曾根中学校)

不登校児童生徒療育キャンプ 「ワラビーキャンプ」

平成元年に始まったワラビーキャンプは、豊かな自然環境の中での体験活動を通して、児童生徒の自主性を育み、集団での適応力の育成を図ることを目的としています。

令和元年度は、7月23日から26日の3泊4日で北九州市立玄海青年の家で実施しました。

今年は、小学生3名、中学生7名計10名の児童生徒が参加し、野外炊飯やキャンプファイヤー等の活動を行いました。

参加した児童生徒の感想を紹介します。



- 小学校5年生
「楽しかったです。協力することの大切さを学んだので、学校生活でも生かしたいです。」
- 中学校2年生
「3泊4日のワラビーキャンプを通して、今までに知らなかった自分と出会ったように思いました。友情の大切さも実感できました。」



最初は消極的な面がうかがえた子どもたちも、豊かな自然環境の中での様々な体験活動を通して、達成感を味わい、指導員や仲間とふれ合いの中で、自分らしさを発揮することができるようになりました。

新任教育委員あいさつ

未来を担う子ども達が チャレンジしやすい環境を

新委員 小川 美里



本年七月に教育委員を拝命しました。北九州市の伝統工芸を継承する企業で広報と営業を担当しています。

本市では、これまで「ミズ21委員会」や「ワークライフバランス懇話会」、「ダイバーシティ推進会議」など様々な貴重な機会を頂いて参加して参りました。教育という分野は初めてですが、一保護者として微力ながらお役に立てることを精一杯考え、務めて参れたらと存じます。

「教育委員会」について触れますと、所管は文部科学省、首長から独立した行政委員会、教育行政における重要事項や基本方針を決定する組織です。具体的には、月2回の定例会の他に、臨時会の開催があり、ここで様々な議案について協議・決定がなされる他、学校行事への出席などがあります。初出席の際に驚いたのが議題の多さとその範囲です。私にとって拝命後初めての議題が「教科書採択」でした。子どもたちが成長する過程で礎となる教本を選択することの重みを、最初の会議で知るところとなりました。検討に費やされた時間から鑑みましても、先生方の日頃のご尽力に心より敬意を表するばかりです。

さて、本市では子どもの未来をひらく教育の目標の一つとして、「本市に誇りをもつ子どもをはぐくむ」と掲げられています。未来を担う子どもたちが、生まれ育った北九州市に誇りを持ち、グローバル社会で元気に活躍している姿を想像し、その環境づくりに少しでも貢献できればと考えています。

どうぞ宜しくお願い申し上げます。

学校の 話題提供



ドローンを活用した プログラミング教育

教育委員会では、2020年からの小学校におけるプログラミング教育必修化に備え、昨年度から「北九州市小学校プログラミング教育推進事業」として小学校3校を指定し、先行研究を行っています。

プログラミング教育指定校である今町小学校では、学校独自の取組としてドローンを活用したプログラミング教育を総合的な学習の時間で行いました。

児童自ら組み上げたプログラムが、バーチャルではなく、リアルにかつ即座に確認できるため、プログラミング教育の目的である論理的思考力や問題解決力を養うための学習が可能となります。

児童たちは、3、4人の班ごとに話し合い、スタート地点からゴールまで様々な障害物乗り越えるためのプログラムを考えていました。失敗を繰り返しながらも粘り強くプログラムを改善し、ゴール出来た班からは拍手や歓声が聞こえていました。



福岡県特別支援学校技能検定事業

1 事業の目的

福岡県内の特別支援学校高等部生徒の自立や社会参加に向け、技能検定の取組を通して、就労に必要な知識や技能、態度を身に付けるとともに、卒業後の社会生活・職業生活への意欲や自信を高めることを目的としています。

令和2年度からの実施に向けて、福岡県特別支援学校技能検定のプレ技能検定を始めます。

2 概要(参加校や種目等)

○昨年度は、北九州中央高等学園、門司総合特別支援学校、小倉南特別支援学校の生徒が「自在ぼうき」を使用した「清掃作業」のプレ技能検定にチャレンジしました。

○今年度は「プレ技能検定の実施校を3校から6校に拡充小倉北特別支援学校、小池特別支援学校、八幡特別支援学校、八幡特別支援学校が加入し、「自在ぼうき」の他、県内で提案されたテーブル拭き「水モップ」と3種目に挑戦しています。



○プレ技能検定を通して、生徒への清掃技能の定着と就労への意欲や自信の向上を目指しています。

※技能検定の級と対象について

福岡県の技能検定は、生徒の清掃技能の定着状況に応じて、「初級」「中級」「上級」の3段階に設定されています。

- 初級 高等部1年生など、初めて清掃作業に取り組みレベル
- 中級 清掃作業の技能をより高めたいレベル
- 上級 ビルクリーニング検定の3級相当レベル